



※金額は全て税抜き表示です。

### 『きみの声を聞かせて』

小手鞠るい 著

(偕成社) 1,400円

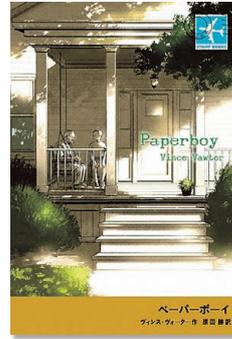


日本に住む声が出なくなった少女と、アメリカに住むピアノを弾く少年。2人は、音を共有できるSNSを通して知り合う。少年は音楽を少女に、少女は自分の書いた詩を少年に送る。詩と音楽の交換を通して、互いの心を通わせていく美しい物語。

### 『ペーパーボーイ』

ヴィンス・ウォーター 作／原田勝 訳

(岩波書店) 1,700円



1959年のメンフィス。主人公は夏休みの間、新聞配達(ペーパーボーイ)をすることになった。吃音症を抱える主人公が、ひと夏の経験で様々な人たちと出会い、言葉を交わし、成長していく。大切なのは、どう言うかじゃなく、何を言うかだ。

### 『僕は上手にしゃべれない』

椎野直弥 著

(ポプラ社) 1,500円

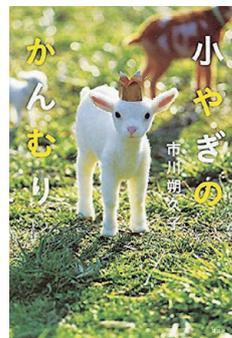


吃音の悩みを抱える悠太は、しゃべるといふことからいつも逃げていた。中学校入学式の日「必ず上手に声を出せるようになります」と書かれた放送部のチラシを受け取り…。自分を変えるために、悠太は放送室のドアを開ける。

### 『小やぎのかんむり』

市川朔久子 著

(講談社) 1,400円



父親の暴力から逃れるために、お寺のサマーキャンプに参加した中3の夏芽。ふすまの隙間からのぞく子どもの目。見たことがない最新式の草刈り機。「宝物」を見つけた夏芽は、自分を取り戻し、前へ歩き始める。

### 『夜間中学へようこそ』

山本悦子 作

(岩崎書店) 1,500円



優菜のおばあちゃんが夜間中学へ入学した。中1の優菜はおばあちゃんの付きそいで夜間中学へ行くことに。夜間中学は勉強がしたい人、勉強を楽しむ人、勉強ができる幸せであふれていた。勉強するってこういうことなんだ。



## 『世界を7で数えたら』

ホリー・ゴールドバーグ・スローン 著／  
三辺律子 訳

(小学館) 1,500円



7という数字と植物にこだわる天才少女ウィロー。養父母の死によって、一人ぼっちになってしまう。やる気のないカウンセラーやベトナム人家族、ウィローの新しい出会いがそれぞれの人生を変化させ、新しい絆を生み出していく。

## 『わたしがここにいる理由』

片川優子 作／シライシュウコ 絵

(岩崎書店) 1,400円



幼なじみの3人が中学生になり、人間関係や自分のやりたいこと、恋愛など、それぞれが悩みを抱えながら成長していく物語。中学生になって悩みを抱えている人へ、新しい一歩を踏み出す勇気を与えてくれる一冊。

## 『ひかり生まれるところ』

まはら三桃 著

(小学館) 1,400円



普段のぞくことができない神社の日常が、生き生きと描かれている。神職として神社で働いている真面目な主人公、希美。中学生の頃から抱えている悩みや、神社で起こる出来事と向き合い、成長していく物語。

## 『アウシュヴィッツの図書係』

アントニオ・G・イトゥルベ 著／小原京子 訳

(集英社) 2,200円



アウシュヴィッツ強制収容所には学校があり、そこには8冊だけの秘密の「図書館」が存在した。本を隠し持っていたのは、14歳の図書係ディタだった。死と隣り合わせの絶望的な環境で本を守る理由とは…。

## 『すきになったら』

ヒグチユウコ 作

(ブロンズ新社) 1,400円



「すき」になるとは、どんな気持ちなのだろう。誰かを好きになったときの心の動きを描いている、美しい絵本。何かに心を奪われたとき、世界は美しく変わっていく。

このチラシに掲載された図書は、原則として、平成28年4月1日以降平成29年3月31日までに出版された図書で、図書館司書、読書団体、出版社等から推薦のあったものの中から「茨城県青少年の健全育成等に関する条例」の規定に基づいて推奨したものです。

図書を選ぶ際の参考としてご活用ください。

### ○お問い合わせ先

茨城県知事公室女性青少年課  
茨城県水戸市笠原町978-6  
TEL 029-301-2183

